

「茂木幹事長のホームページに定住外国人への地方参政権は賛成と書かれていますが、自民党の幹事長の発言として問題では？」

令和5年4月4日

●キムチ鍋さんからの質問

茂木幹事長は自身のホームページにおいて

優秀な外国人を迎え入れるという韓国の姿勢は戦略的に優れている

とのメールに対する回答として

21世紀の日本を「多様性のある多民族社会」に変えることが必要だとして、4つの具体的な政策課題の中に定住外国人に地方参政権を与えることも指摘しています。この意味でご意見には賛成です。ただし、韓国が日本より進んでいるか否かは、今後の動き次第だと思います。ハブ空港の建設では、日本は韓国に明らかに遅れを取っていますが、この地方参政権の問題でも遅れを取らないようにしなければなりません。

と述べております。自民党の幹事長自らこうした発言をするというのは、おかしいと思います。海外の事例を見ても、外国人参政権を認める必要はないと感じます。西田先生はどのように思いますか？

●西田昌司の答え

私は昔から定住外国人の地方参政権に反対していますし、この問題は民主党政権時に既に解決済です。

麻生政権が衆議院を解散して民主党が政権を取りましたが、この時の民主

党の公約に定住外国人に対する地方参政権の付与がありました。民団の方が民主党候補者のポスターを貼って選挙応援をしていましたし、野田佳彦氏が民団の大会において選挙のお礼を述べていました。

野田氏は浪人時代、船橋駅で毎朝街頭演説をしていましたが、その時、民団の役員が声をかけてきて親しくなりました。その人は船橋駅の前のラーメン屋を営んでいましたが、野田氏はその店に招かれてラーメンをご馳走になり、献金ももらっていました。西田事務所の人間にこの店を偵察させましたが、民団のポスターが貼ってある等、誰が見ても直ぐに韓国人が経営していることがわかる店でした。

日本の政治家が韓国人と付き合いでも構いませんが、外国人に選挙応援をしてもらったり献金をもらうのはいけませんし、ましてや参政権を与えるなど言語道断です。私は国会において野田総理を糾弾しましたが、野田総理自身は地方参政権に反対の旨の答弁をされました。

地方参政権は民主党政権時に危うく実現しそうになりましたが、国民新党が拒否権を発動したので何とか食い止められ、自民党の猛反対もあってそれから議論が下火になりました。あれから10年以上が経過した今の時点で茂木さんが賛成の旨の発言をする意図はよくわかりませんが、少なくとも自民党の中で正式に議論はされていません。

茂木さんが個人的に地方参政権に賛成の考えを持つのは自由とも言えますが、しかし、地方参政権が日本の国益を大きく毀損するものである以上、自民党幹事長が公に発言する内容ではありません。韓国や中国では徹底的な反日教育がなされており、そのような教育を受けた人間が日本にやってきて地方参政権を得ると、反日勢力に力を与えてしまって日本が危うくなるのは自明です。

韓国人や中国人でも、日本に帰化すれば参政権が与えられるのですから、本当に欲しければ日本人になっていただければ良いのです。しかし、日本人に

なるということは、日本の国防の義務を背負うことになり、そもそも参政権は国防の義務と不可分でありますから、そういった覚悟を持ってもらわなければなりません。我々日本人は、生まれた時から日本人としての権利を有し、大人になれば参政権を与えられますが、参政権を行使するということは本来、日本人としての覚悟が問われるのです。

戦前は、学校において日本人の歴史観・価値観が教えられ、教育勅語や国史（神話から始まる日本の歴史）が日本人の常識として日本人に共有されてきました。しかし、戦後は日本人に日本の教育が行われていないがために、日本人としての覚悟のない人々が大量に生まれてしまい、そういった方々に参政権を与えているのですから、これは（定住外国人への地方参政権の付与と同様に）恐ろしいことです。

GHQ は戦後、日本人教育を禁止させることで日本解体を目指し、実際に日本がどんどんと失われつつあります。外国人参政権など言語道断ですが、日本人教育を日本人にしっかりとすることが何よりも大事です。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>